



# 200号を記念して

## 江府町議会のあゆみ

梅花の候、町民の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、「議会だより」発刊200号を迎えるにあたり一言御挨拶申し上げます。

昭和47年6月創刊以来、年4回の発刊を続けてまいりました「議会だより」が記念すべき200号を迎えることが出来ました。これもひとえに町民の皆様のご愛読、ご指導のたまものと御礼申し上げます。

創刊号以降から順々に読み返し当時の予算案、各事業案等の審議状況から採決に至るまでの過程がわかりやすく記されており、また町政に対する一般質問に於いても議員と町長との真剣且つ熱い議論のやり取りが見て取れます。また、議員発議で

①公費による宴会(定例会終了後の執行部と議会との懇親会)を辞退し会費は自費で行うこと。そして②16名の議員が日曜祝日を除く毎日交代での日直制度を設け、町民からの陳情、要望、苦情等を聴

取、議長へ報告し町政に反映させることの決議が載っております。その後の議会だよりには2か月分の日直日割表も掲載されておりました。

当時はそれだけ町民からの切実な要望や陳情も多かったものと拝察されます。

まさに「温故知新」これからの議会活動の充実、更なる議会改革、そして分かり易い議会だよりの紙面づくり等、大変勉強になりました。

今後とも、読みやすく、分かりやすい紙面づくりに努めますので引き続きご指導、ご愛読賜りますようお願い申しあげましてご挨拶いたします。

江府町議会議長 三好 晋也



江府町議会だよりは1972年6月1日に第1号が発行されてから、実に50年もの歳月を積み重ねられていきます。今回の寄稿にあたり、創刊号から改めて議会だよりを読んでみました。当初はモノクロでサイズもB5ではありますが、その時々江府町がどう進もうとしていたのか、どのような議論がなされていたのか、手に取るようにわかりました。

さて、私は江府町長に就任する以前、鳥取県職員でした。副町長として県から出向するにあたり、江府町の課題を把握する必要があったと考えました。そこで役立ったのが議会だよりです。10年分くらいの議会だよりから、一般質問のやりとりを年度別、議員別に整理して、時代の流れに対応してどのような質問がなされているか、どの議員さんが

どのような質問をされるのかを確認しました。また、予算審議の際のやりとりは課ごとに、決算審査も会計ごとに一問一答方式でまとめられています。決算特別委員会の参考意見も課ごとにまとめられていたものもとても勉強になりました。これらも、課題ごとに整理をして、私なりに町に対する理解を深めるために使いました。

そして、興味深かったのは巻末にある「私のひとこと」のコーナーです。このコーナーは106号から「ひと言」というタイトルで始まり、180号から現在のタイトルに変わりましたが、町に住んでいる人、町にゆかりのある人が江府町に対する想いを率直に書かれています。読み物としても面白いですが、人を知るのに役立つ資料として、一覽にまとめ活用させていただきます。

このように「江府町のことを知るのにとっても役立つ議会だより」「議会と町民のみなさんをつなぐ議会だより」通算200号の発行をお祝いするとともに、今後さらに発展、継続されることを期待しています。

江府町町長 白石 祐治

- |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                        |                                                                                                                             |                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <br>三好 恭祐<br>第6代 自 昭和36年7月<br>至 昭和38年7月<br>第11代 自 昭和48年7月<br>至 昭和50年6月 | <br>清水 理夫<br>第4代 皇 昭和34年3月<br>至 昭和34年5月<br>第9代 皇 昭和40年7月<br>至 昭和44年7月<br>第10代 皇 昭和44年7月<br>至 昭和48年7月 | <br>白石 貞治<br>第3代 自 昭和32年7月<br>至 昭和34年3月<br>第5代 自 昭和34年5月<br>至 昭和36年7月 | <br>第2代 濱本 政記<br>自 昭和30年4月<br>至 昭和32年6月    | <br>初代 井田 正壽<br>自 昭和28年7月<br>至 昭和30年3月      |
| <br>第14代 下村 矛雄<br>自 昭和52年7月<br>至 昭和56年7月                               | <br>第13代 加藤 信夫<br>自 昭和51年6月<br>至 昭和52年7月                                                             | <br>第12代 井上 一<br>自 昭和50年6月<br>至 昭和51年6月                               | <br>第8代 岡田 竹男<br>自 昭和39年7月<br>至 昭和40年7月    | <br>第7代 竹茂 導<br>自 昭和38年7月<br>至 昭和39年7月      |
| <br>第19代 住田 孝治<br>自 平成元年7月<br>至 平成3年6月                                | <br>白石 秀之<br>第18代 自 昭和62年6月<br>至 平成元年7月<br>第20代 自 平成3年6月<br>至 平成5年7月                                | <br>第17代 濱本 博<br>自 昭和60年7月<br>至 昭和62年6月                              | <br>第16代 藤原 米治<br>自 昭和58年6月<br>至 昭和60年7月  | <br>第15代 中田 博<br>自 昭和56年7月<br>至 昭和58年6月    |
| <br>第28代 池田 成弘<br>自 平成19年6月<br>至 平成21年7月                             | <br>第27代 長岡 邦一<br>自 平成17年7月<br>至 平成19年6月                                                           | <br>第23代 川端 雄勇<br>第24代 自 平成9年7月<br>至 平成17年7月<br>第25代<br>第26代        | <br>第22代 森田 智<br>自 平成7年6月<br>至 平成9年7月    | <br>第21代 佐々木 正<br>自 平成5年7月<br>至 平成7年6月    |
| <br>第35代 三好 晋也<br>自 令和3年7月~                                          | <br>第34代 上原 二郎<br>自 令和元年6月<br>至 令和3年7月                                                             | <br>第31代 川上 富夫<br>第32代 自 平成25年7月<br>至 令和元年6月<br>第33代                | <br>第30代 日野尾 優<br>自 平成23年6月<br>至 平成25年7月 | <br>第29代 越峠 恵美子<br>自 平成21年7月<br>至 平成23年6月 |

# 12月定例会

## 一般会計予算総額

# 50億4,258万円

12月定例会は12月6日に招集され 12月13日までの8日間開催されました。

一般会計補正予算、特別会計補正予算（国保施設勘定、老人保健施設、索道事業）、条例改正等の6議案で原案通り可決されました。

また、一般質問は7日に3名の議員が行いました。

### 歳出の主な内容

- 観光施設管理事業費 索道会計繰出金 (エバーランド第2リフト購入費) 624万円増額
- 道路維持費 4,007万円増額
- 除雪経費
- 日野郡3町連携事業 (除雪経費、県道修繕工事費) 4,700万円増額
- 教育費
  - 学校情報通信技術環境整備事業 267万円増額
  - 教育用iPad購入(追加分) 209万円増額
- 文化財保護費 江美城周辺整備委託料 209万円増額

### 歳出の主な内容

- 民生費
  - 社会福祉総務費 給油等助成券配布事業 2,086万円増額
  - 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援 給付金事業 1,835万円増額
  - 生活自立支援対策事業費 生活困窮者エアコン等光熱水費助成事業 26万円増額

### 補正予算の主な内容 (一般会計7号、8号)

**11月臨時会**

11月28日開催され、一般会計補正予算、条例改正等、原案通り可決されました。

## 日野町江府町日南町衛生施設組合議会報告

(令和4年11月29日江府町で開催)

令和4年度組合会計補正予算(第2号)可決

歳入 分担金及び負担金 5,360千円減額

令和3年度からの繰越金の増額に伴うもの

江府町の負担金減額分 し尿処理分 △659千円

ごみ処理分 △1,579千円 合計 △2,238千円

歳出 総務費 47千円増額、衛生費 8,485千円増額

給与条例改正、電気料金の上昇に伴うもの

※ごみ処理施設「くぬぎの森」における害獣処理残渣の受け入れについて、地元の黒坂7区自治会と継続協議中。

## 日野病院組合議会報告

(令和4年11月30日日野町で開催)

日野病院組合職員の育児休業等に関する条例の一部改正について

令和4年度病院事業会計補正予算(第3号)

いずれも承認

補正予算についての内訳

収益的収支

病院事業費用13,275千円の増額補正

- 院内感染対策用医療消耗品、破損機器の更新等
- 経費としてリモート面会用タブレットを増やし、患者と家族の面会用に使用
- 燃料費高騰による光熱水費の増 12,075千円増額

資本的収支

器械備品購入費58,795千円増額。(眼科医の交代によるものもあり)

- 入院収益が昨年と比べて76,000千円減。(大きな原因は、新型コロナ対応のため病床を6~7室確保が必要となったことによる。最終的に県から補助金をいただく見込み。)

※鳥取大学からの小児科医の常勤派遣が困難となり、今後、日野郡で小児科医の確保が課題となる。

### 【お詫びと訂正】

令和4年11月16日発行の議会だより第199号の掲載記事に誤りがありましたので、以下のとおり訂正し、お詫びいたします。

陳情の審査結果(第6回江府町議会9月定例会提出)について、「提出者及び紹介議員」の訂正

陳情の審査結果	受理番号及び受理年月日	件名及び要旨	提出者及び紹介議員	審議結果	
令和4年 第6回江府町議会 9月定例会提出	陳情第9号 令和4年 6月6日	中国共産党による臓器収奪の即時停止ならびに人権状況の改善を求める意見書の提出に関する陳情	(訂正前) 教育民生常任委員会 委員長 阿部 朝親	(訂正後) 兵庫県伊丹市北伊丹1-75 井田 敏美	不採択
	陳情第10号 令和4年 8月9日	地方財政の充実・強化を求める陳情	(訂正前) 総務経常任委員会 委員長 川端 登志一	(訂正後) 鳥取市南町505 自治労鳥取県本部 執行委員長 山口 一樹 江府町大字江尾1717番地1 江府町職員労働組合 執行委員長 田本 文一	採 択

# 総務経済常任委員会

## 所管事務調査報告書

調査日 令和4年11月8日

### 佐川住宅整備事業

江府町移住促進住宅等整備事業

- 調査内容**
- 取得用地面積 5,200㎡
  - 取得価格 3,000万円
  - 商業施設 350㎡
  - (コインランドリーを含む)
  - 移住促進住宅募集開始 令和5年7月予定
  - 移住促進住宅運営開始 令和6年1月予定
  - 解体業者も決まり11月中旬から解体工事が始まる。
  - 建物には、天井、外壁等にアスベストが確認されており、飛散防止措置や解体作業中の騒音防止に努め施工されたい。

### 考察

当事業個所は、国道沿いで、インターチェンジや道の駅等の施設も近接し、今後の江府町を発展させる要素を多分に含んでいる。しかしながら、本件予定地と道の駅奥大山の間には、国道181号線があり、現状で横断することは大変危険である。横断歩道や押しボタン式信号機設置などの安全対策を十分に検討されたい。

### 江府道路事業

一般国道181号 地域高規格道路江府三叉道路(トンネル工事) **調査内容**

令和3年10月15日からトンネル工事が始まり、全長2,609mのうち11月7日現在で、300m



久連トンネル入口

(15%)掘削が進んでいる。

令和4年8月から昼夜の掘削作業となり、作業員は現在の19名から今後、最大30名となる予定である。

現場企業のイメージアップと意識高揚のため、工事現場入り口を企業カラーの青色と緑色でライトアップしている。

経済的・地域貢献として地元商店や飲食店を利用している。

今後、江府学園の生徒が書いた絵の掲示や、江尾十七夜等のイベントに協力企

業を含め参加を予定している。

工事においては無事故、無災害で完了されたい。

日野県土整備局の予測では、江府道路が完成後、現国道の車の流れは変わり、小江尾付近の交通量は1日当たり7,500台が3,500台と半減する見込みである。新設の江府道路では、1日当たり7,800台を見込んでいる。地元町としては、このような社会変動を見越し、住民と町が一体とな

り、更なる魅力あるまちづくりを押し進められたい。

### せせらぎ公園 あやめ館

#### 調査内容

あやめ館の修理及び改装が終了次第、tenrai株式会社が事業所として使用する。水を始め自然豊かな、江府町の考え方に共鳴して、町とのパートナーシップ、共同ビジネスを考えている。

せせらぎ公園の維持管理は江府町が行い、運営はtenrai株式会社が行う。コース、遊具、遊歩道等は、今まで通り使用できる。

#### 考察

今後、本町が住民とtenrai株式会社との意見交換会

等を開催するなどし、信頼関係の構築に努め、本来の目的である

※「プナタリーヘルス」の実践により、自然環境と一体となった健康の推進が早期に達成されるよう努められたい。

※「プナタリーヘルス」は、地球環境に多大な影響を及ぼしている人間の政治経済、社会システムに向き合い、人と地球環境の密接な関係に注目することで、人間と地球の健康のバランスがとれた公平な社会を目指すこと。

### 一般財団法人 奥大山農業公社

#### 調査内容

高齢化の影響により秋作業に於いて、粉の運搬作業などに支障をきたしている。更には、急激な肥料高騰のため、堆肥の注文が多くなり、配

達や散布作業に非常に苦慮している。

・新甘泉は、県の普及所の指導を受けながら栽培を行ったが、摘蕾摘果が適時適正に行えず、生育不良による規格外が多く、目標収穫量を確保できていない。

・町全体に於いて、米の作付面積は減少し、そばの作付面積が大きくなったことにより、本年度そばの乾燥機2台を増強し、汎用コンバイン1台を導入している。

#### 考察

作業の安全については、災害や事故の発生はないが、進入路での横転事故や熱中症に対する対策を十分に作業者されたい。

今後米の作付面積は減少し、そばの作付面積が増加すると思われる。公社

として十分な対応をされたい。

新甘泉については、摘蕾摘果を適正に行い、規格に適合した、果実づくりに努められたい。加工品は今後も試行錯誤しているが、継続し研究を重ね、是非、特産品となるよう努められたい。

### 奥大山地美恵

#### 調査内容

・奥大山地美恵の稼働実績は、令和4年4月から10月まで猪が44頭、鹿が41頭、前年比で猪が倍増し、鹿が3割増となっている。

令和4年7月末で協力隊員の退職により、調査日時点に於いて専従後継者不在のため、僅かなボランティアにより運営している。早期に

人員体制を構築し、所期の目標を達成されたい。

#### 考察

残渣処理について現在くぬぎの森での焼却処分はできない。今後、処理できるように、本町からも働きかけられたい。

協力隊員の退職により、電話対応や商品配達などが困難となり、消費者に迷惑をかけている。協力隊やその他広く募集について強く呼びかけ、捕獲の技術やその後の処理について継承し、農産物の被害低減に寄与されたい。

### 道の駅奥大山 (株式会社奥大山 ドリーム)

#### 調査内容

・店舗の販売状況は、(決算は令和3年8月

令和4年7月まで)100,297千円(前年91,722千円)とコロナ禍にもかかわらず109%となった。経常利益は152千円(昨年▲327千円)となり好転した。コロナ禍の影響の下、当面の目標であった年間売上1億円を達成できたことは評価できる。新しい目標として、年間売上1億2,000万円達成に向けて更なる努力を続けられたい。展望として、レストラン等のメニューの充実と新商品の開発や各種イベントの開催等を計画しており、大いに期待できる状況といえる。

#### 考察

年間売上1億円は達成できたが、更なる目標1億2,000



賑わう道の駅マルシェ

# 教育民生常任委員会

## 所管事務調査報告書

調査日 令和4年11月14日・17日

本委員会は、老健施設あやめ・奥大山江府学園・図書館他を事務調査したので、以下の通り報告します。

### 介護老人保健施設あやめ

#### 現状

- ① 入所稼働率は、年間90%を別途としているが、現状は80%台に留まっている。
- ② 職員数は、退職者があり、増員できていないが、令和5年度には2名の増員予定である。
- ③ 町内入所の優先希望があるが、入所判定基準もあり、難しい面がある。
- ④ 通所リハビリテーションについては、稼働率80%以上を計画しているが、届かなかった。

### 子供の国保育園

#### 現状

- ① コロナ禍で行事が制約されている中でも、感染対策を行いつつ、行事を実施している。
- ② 園児の登園・降園については、高年齢化が課題となっている。
- ③ 施設は、全体的に床の剥がれ等があり、ベッドも耐用年数が経過しており、設備の改修が必要となっている。
- ④ コロナ禍の影響は大きいと思われるが、特に町民を優先される等、利用者の期待を十分に理解し、努力されることを望む。
- ⑤ また、施設改修等については、関係部局と協議され、安全な施設運営に努められたい。

園についてはスマートフォンアプリにより確認している。

### 江府町立図書館

#### 現状

- ① 令和4年にカウンター等を設置、車イス移動も可能とした環境整備を行い、図書スペースを確保し、リニューアルオープンした。
- ② 本の貸し出しは、県図書館とも連携しており、令和4年11月現在2,349冊となっている。
- ③ 蔵書は、21,259冊あるが、64%が古い本であり、図書費の増額が必要である。
- ④ 図書館の人員は、専任館長を配置し、司書5名となっており、学校図書館司書2名と連携を強化している。

リニューアルによる図書スペースが確保され、利用増が期待される。図書費については、他の自治体に匹敵するような大幅な増額と、可動書庫の設置も望ましい。また、職員の連携を取り、町民のさらなる図書館利用に努められたい。



リニューアルされた図書館

### 俣野診療所 (俣野ふれ愛学舎)

#### 現状

- ① ふれ愛学舎の開館は、月・木曜日の9時から16時までとなっており、利用者は患者を含め今年902名の利用となっている。
- ② 診療内容は、江尾診療所と電子カルテを共有し、連携をとっている。
- ③ 施設については、

#### 考察

施設としては、期待された成果を上げていると思われる。今後はさらに江尾診療所と連携を深め、地域医療の推進を図られたい。医師の確保は大変重要な課題であり、十分に検討努力されたい。

### 奥大山江府学園

#### ブナの森校舎

- ① 学園運営について、職員会議は日野川校舎とオンラインで実施している。
- ② 各校舎の玄関に設備したオンラインにより、子どもの確認を行い、子どもも校舎間で利用をしている。
- ③ タブレット化に合わせた授業を実施している。
- ④ 5年生は最上級生としての成長がみられる。
- ⑤ 和式トイレの改修・タブレットの故障対応等が必要となっている。

#### 考察

教科担任制の活用で連携を図り成果を上げている。英語教員による3～6年生の外国語指導を行っている。3年間で進んで来た教育が4年間で出来るようになり充実できる。ふるさと魅力発信科の学習の充実を図り、全学年で実施している。スクールカーの長期休暇の間の使用が課題となっている。



トイレ改修が待たれる俣野診療所

- ① 学園運営については、分離型義務教育学校の強みを生かした運営を目指し、
- ② 学舎間の交流状況

新しく義務教育学校が始まったが、両校舎の連携が取れており、スムーズな運営がなされている。今後も生徒視点での教育が求められるが、教科担任制の活用など義務教育学校の利点を生かした運営を望む。リモート利用など、ITの取り組み

### モニターによる校舎間の交流状況



日野川校舎玄関(旧江府中学校)

(9) 令和5年2月15日発行



ブナの森校舎玄関(旧江府小学校)

みについては遅れることなく更新された。また、施設改修の必要な箇所は、早期に改善されたい。長期休暇におけるスクールカー利用の課題については、タクシー利用の促進等解決に向け努力されたい。

# 本町の働く場所づくり促進について

## ～雇用創出は、地元企業と起業者の連携を考える～



森田 哲也

動画で一般質問



森田議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

**企業誘致はリモートワークでの参入で**

**質問** 本町の現状では、企業誘致は難しいと思うが、今は、「住所に関係なく、時間の制限もない、リモートワーク」が企業誘致のポイントとある。本町の特徴を活かした企業誘致を。

**町長答弁**

これまでの企業参入では、地元全体に優位というわけではない。今はリモートで、町外から仕事が取れることもある。今度の佐川の事業やあやめ館の整備でも設備を計画している。

**兼業農家と小さな起業者の支援事業を**

**質問** 兼業農家の減少が

目立ってきている。島根県のように半農半X支援事業や、副業の推進は全国的に実施されている。これと併せて、小さな起業者への支援事業も必要と思うが。

**町長答弁**

兼業農家の支援は、生産物の加工品で収入を増やす場合などに支援をしたい。起業支援は「こころのたより」で、事業実施の際に支援しているが、役場サポートも強化したい。

**「ふるさと副業」で町外からの知恵を**

**質問** 移住者は、様々な業種の人々が共同で使うスペースに関心が高く、また、町外から副業の形で広報や商品開発をしても

らつ事業が進んでいる。移住者の転入に繋がると思うが。

**町長答弁**

移住者の起業は、支援したい。共同スペースは「tenrai株式会社」が、あやめ館に入り、多様な企業や大学・研究機関などが集まり、町内で起業されるきっかけになると期待している。



tenrai(株)により企業参入も期待されるあやめ館!

**地元企業に多様な支援を積極的に助成**

**質問** 福利厚生制度を整備した企業を助成するなど、地元企業を魅力的に感じさせる制度に対して補助の新設。また、働き方改革や副業を支援するなど地元企業への雇用支援策は。

**町長答弁**

地元企業の支援は、当然大事にしていきたい。江府学園の授業でも側面に応援し、町内に帰ってくる奨学金を町が肩代わりする制度活用など、地元企業への就職を促進したい。

力を入れるべきでは。DX事業など、新規事業と連動した雇用創出の可能性はどうか。

**町長答弁**

光ファイバーの使用料を高校生在住家庭までの無償化は、総務省でも高い評価を頂いた。新規事業を雇用創出につなげたい。「ソフトバンク」の事業を通じて話も来たりしている。

**特定地域づくり事業協同組合の設立を**

**質問** 集落営農などの農業組織職員や地域おこし協力隊など町外からの定住確保、起業者の副業の確保などと、地元企業との連携による働く場の確保は重要。設立についての考えは。

**町長答弁**

有利な支援措置はあるが、これをコーディネーターとしていく人材の雇用確保が難しい。

**産業建設課長答弁**

複数の企業の参加が必要だが希望が少なく、国の制度を利用して、すくには難しい。

**質問** 町外に本社を持つ企業の参加など研究し、設立準備は専門職員の派遣など本町でも実施済み。まず、準備室の設置など積極的に取り組む必要性を訴え、質問を終わりたい。

**町長答弁**

無いよりあった方がいいとは思いますが。問題は投資してもちゃんと使われるかどうか。まず、仲間を作って、みんなで使う運動みたいなやつが広がって、そういう流れが欲しいということになります。

**お試し住宅の内装について**

**質問** 「みらい家」に住んでいて何か要望はありますか？と聞くと、網戸が欲しい。網戸がないとツバメや虫が入ると言われます。戸を閉めるとクーラーを使用しなければならず、江府町の風、空気に当たれないということ。今後利用される方にとって網戸は必須です。

**町長答弁**

早急に対応したいと思えます。

# 江府町産そばの消費拡大に向けて



小型卓上製粉機

**江府町産そばの消費拡大について**

**質問** 江府町はそばの作付けが多くなっており令和4年度は36%になっており、玄そばが18トン収穫でき、そば粉にすると12トンになり、二八そばにするると14万食以上そばがでることになります。これを江府町がそば屋を作り販売してはどうかという話でございませす。自治体が古民家を移築、改装をしてそば屋を作る。町がそば屋をすれば、話題になります。また、そばを耕作した人が、自分で作ったそばを食べてみたいという願いがあります。卓上製粉機を町が購入して、機械を貸



芦立 喜男

動画で一般質問



芦立議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

し出すことにより、町民は非常に喜んでくれると思います。

**町長答弁**

町ではそば屋を作る気はございません。もし、芦立議員がぜひやりたいということであるなら、チャレンジ起業補助金を是非受けられて、それで実施していただければと思います。生産者が製粉機を欲しいのであれば、仲間の方がお金を出し合って購入されてはどうかと思います。何かすく冷たいようですね。お始めになるのが良いと考えます。

**質問** 私がそば屋をす

るなら、応援はするよという話でございませす。

**江府町総合運動公園内トレーニング室の機器について**

**質問** 公園内にあるトレーニング室は昭和57年に運用開始しております。総合体育館のトレーニング室は大変立派なものでした。当時

**町長答弁**

製粉機の話ですが、やはりこれは、個人でされるのであれば個人で購入していただきたい。

**町長答弁**

特に考えは持っておりませす。

**質問** 小型の製粉機を

仲間で購入してでも、町が少しでも補助金を出すとすることも考えておられませんかでしょうか。

**町長答弁**

江府町総合運動公園内のトレーニング室の運動機器を整備してはどうかというお尋ねでございました。全てを町内に持つということもどうかと思っていて、可能であれば町外の施設を使わせていただくということもあり得るかなと考えるのについで思っております。

**質問** 利用料金が発足

当時50円、現在300円料金だけが上がっているという不思議な現象が起きております。

# 戦争と平和、命の尊さについて考える機会を！



川端 登志一



動画で一般質問  
川端議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

## ブナの森校舎通園路の安心安全向上と波及効果

① 通園路の危険性について

質問 二箇所の踏切付近の危険性についての認識は？

教育長答弁 十分な幅員はないが特に問題はないと考えています。

② 通園コースについて

質問 全国では通園路上での事故は多い、高台を経由するルートに変更しては？

教育長答弁 交通安全や防災、防犯の観点から子ども達にはルールをしっかり守らせて今の通学路で登下校させたいと考えています。

③ 徒歩通園の効用について

質問 徒歩通園は後の社会生活に役立つとの考えだが、それ以外にも体力の向上にも効果があると思われるが？

教育長答弁 スポーツテストの結果については教育委員会も理解していますが、バス通学が多い割には県平均までにはなっています。学校保健委員会や専門家の先生も交え協議しているところですが、これからもしっかりと体力をつけたいと思っています。

④ ブナの森校舎子ども教室の充実について

質問 放課後子ども教室の評価は高い、更なる充実を目指し通園コース途上にある児童館や関連施設

設置を有効活用してはどうか？

町長答弁 当然利用は相互に行っています。具体的に児童館の機能を高めるというところまでは現時点では触れにくい。

⑤ 環境の安全について

質問 児童館は下校時の児童の利用が年々増えている。いざという時に備えて大型化した緊急車両等が、円滑に進入できる環境を整えるべきと思うが？

町長答弁 町内には道の狭いところが結構あります。優先順位を見ながら整備して

## 学園での戦争と平和学習について

① 人権・平和・命の学習について

質問 現在行われているロシア・ウクライナの事象について学園ではどのように平和学習へつなげているか？

教育長答弁 日野川校舎の人権弁論で、この度の戦争と平和、正義について学級内で話し合いをしました。ふるさと魅力発信科で使用する副読本に戦争と江府町を掲載の予定です。奥大山江府学園の教育基盤は人権教育です、引き続き戦争、平和、命、人権について積極的に学習していきます。

② 戦争関連資料管理について

質問 点在している戦争関連資料や遺品は、一箇所に集積展示したほうが戦争や平和についての考

えがより深まるのでは？

町長答弁 集積展示場所としては「愛ベル」がふさわしいと考えます。詳細は教育委員会に検討させます。

③ 慰霊塔の移転について

質問 1968年当時の保育園の事情により現在の場所に移設した慰霊塔は、高齢化した遺族や町民にとって不便の上なく、先の資料と合わせ適地に移転してはどうか？

町長答弁 行きにくい場所でありましたが、再びお金をかけたの移転は考えません。



移設後55年経過した慰霊塔

## はつらつ

### 学園議会まちづくり提言

令和4年11月7日江府町役場議場にて、奥大山江府学園9年生7名が、2つのグループに分かれてアイデアを提案しました。

チーム名 イノネ

アツマーレ

問 役場が地域を訪問し、町民の悩みを聞く場を設けることで、悩みを抱え込まず解決につながるのではないか。

答 最新のやり方を取り入れながら住民さんの声を聞いて施策に反映させていきたい。



チーム名 イノフレ

『荒神』

問 神楽もできるラーメン屋があれば、観光客が神楽の魅力を気軽に知ることができるとはならないか。

答 まずは、生徒自身が、「神楽」を実際に観て感じ、ラーメンはイベント等で試してみてもどうか。



## 日野郡の地域医療を考えるセミナー開催

令和4年10月28日日野町役場にて、野村ヘルスケア・サポート&アドバイザリー株式会社講師2名により、2部構成の講演が開催されました。第1部の演題は、「地域住民が安心できる医療・介護の街づくりを目指すには」で、今後の課題として地域住民・患者・医師の高齢化があり、それぞれの機能維持が課題である。医療・介護のインフラは、撤退することはできない。地域で必要なら赤字の機関でも維持させ黒字の機関とバランスよく同居させることが大切であるということでした。

第2部の演題は、「地域医療連携推進法人について」で、今後は、地域医療法人の横の連携を強化することで、競争よりも協調を進めるとともに、ヒト（医師等）・モノ（高額医療機器等）・カネ（資金）を有効に活用することで、良質かつ適切な医療が、効果的に提供される体制を確保することが大切であるということでした。

## tenrai (株) との懇談会を開催

12月9日tenrai (株) (テンライ(株))との懇談会を開催いたしました。当日は、医師で代表取締役の桐村理沙氏より、事業を展開する場所として良質な水と昔ながらの豊かな自然が残る江府町を選んだことや、これから行う予定の人と環境が一体となった健康づくり『プラネタリーヘルス』に係る事業内容などについて解説いただきました。その後、議員との質疑応答がなされ予定時間をオーバーするほど活発に討議が進み懇談は盛り上がりましました。今後の事業成果に期待するとともに町を挙げて支援したいと思えます。

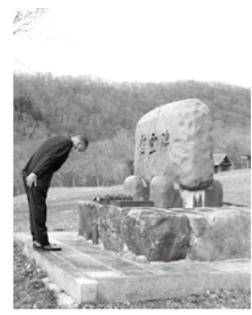


活用が期待される水車小屋

## 「あの日を忘れない」

### 奥大山スキー場献花式

12月6日、奥大山スキー場において、雪崩事故による犠牲者追悼のため、献花式が行われました。当日は、積雪はありませんでしたが、時折吹く風により、厳しい寒さを体感しました。あの日からすでに12年という年月が経過していますが、当時のことは、鮮明に記憶に焼き付いています。犠牲になられた方々のためにも、教訓として忘れることなく、未来へ伝えていく責務を改めて認識させていただきました。



## 長岡議員が町監査委員として全国功労表彰！

この度、長岡邦一議員が、全国町村監査委員協議会の規程により、10月26日から27日に東京で開催されました全国研修会にて、功労表彰を受けられました。江府町議会選出の監査委員として、通算で7年以上在職され、監査業務へのご尽力とともに、地方自治の振興・発展に寄与されました。引き続き、公正で適正な行財政運営確保により、町民の信頼を高める役割を果たされたいことを、ご期待いたします。



# 私のひとこと



奥大山江府学園  
初代校長 景山 敬文

## まちの新聞について

町議会だより200号発行、おめでとうございます。議員の皆様には、日頃より学校も大変お世話になっているところであり、このような機会に寄稿のお声かけをいただいたこと、光栄に感じています。

私が江府町にお世話になるのは、平成18年、当時の「江尾小学校」勤務まで遡ります。新学期がまだ始まっていない春休み、子ども達が「新しい先生ですか？」と親しく声をかけてくれました。新しい学校の着任で、とても緊張していた私を、

気持ちよく迎えてくれた子ども達に元気をもらったことをよく覚えていました。

その後、江尾小学校の閉校、江府小学校の開校に立ち会うこともできました。

その後縁あって、江府町教育委員会事務局勤務となり、議会のみならずとのつながりも、より強く感じるようになりました。予算委員会や決算審査など、ドキドキしながら議員のみなさんに説明したことを覚えています。その後、学校現場に戻り、江府小で5年間勤務させていただいたのち、再び教育委員会事務局勤務となりました。課長職ということもあり、毎回の議会にも出席させていただきました。一般質問や全員協議会、予算審議などを通して、「議会制民主主義」を身をもって体感するという貴重な経

験もさせていただきました。

今年度から「学園議会」と名称を改めた生徒の議会参加の取り組みも、まさに子ども達が同じ体験ができる場だと思っています。実際の議場で、

本当の議長の進行によって議事が進み、本物の町長に答弁をいただく、まさにホンモノの議会を体験させていただくことは、子ども達にとって貴重な学習の場だと感じています。この機会を通して、子ども達もわが故郷が、ここ江府町であるということも、再確認することにもつながっているように思います。

このような機会を毎年設けてくださる町当局および議会の皆様の深い理解に心から感謝する次第です。

また、そのような場を設けてくださることは、これからの江府町を切り

拓く、若い力への大いなる期待の表れだとも思います。

「ふるさとに夢を描き、まち・ひと・みらいとつながる江府っ子の育成」が本校の学校教育です。9年間の学習を通して、ふるさとを知り、ふるさとを創造する意欲あふれる子ども達を育てていくため、子ども達の成長に携わる一人として、微力ながら努力していきたいと思えます。

今後とも、「まちの学園」奥大山江府学園をよろしく願います。



この度、「こうふ町議会だより」を節目の200号として発行することが出来ました。

日頃より町民の皆様には、議会だよりへ、ご意見、ご指導をいただき、心より感謝いたしております。

本誌では今回、記念の企画として、白石町長からの寄稿、歴代議長の写真を掲載させていただきました。

昭和47年に第1号の発行以来、「議会だより」50年の歴史は、町政の歩みを町民の皆様と共に感じられるものとして、広く認知されてきたことの証明でもあります。

今後も江府町の発展のため精進し、伝統と歴史を重んじ、他に誇れる地方行政の一翼を担えるよう更に尽力したいと存じます。

三輪 英男

### 広報公聴常任委員会

委員長 三輪 英男  
副委員長 川端登志一  
委員 阿部 朝親  
芦立 喜男  
加藤 周二